

野研びより

昆虫編 9号

野外生物生体調査研究部 昆虫班

2017年10月



図1.オカダンゴムシ
(2017/10/26 平和台公園周辺)

オカダンゴムシ *Amradillidium vulgare*

ワラジムシ目 オカダンゴムシ科

体長：0.5～1.5cm

分布：日本全土

時期：ほぼ年中(冬はあまり見られない)

日本に生息するダンゴムシのうち、最もよく見られる種で、名前の通り危険を感じると腹部を内側にして丸くなる。

落ち葉や生き物の死骸などを食べるため、生態系の物質循環において分解者の役割を担っている¹⁾。

暗く湿った場所を好むため、昼間は石や落ち葉の下に隠れていることが多く、主に夜間活動する。

雌雄は、オスが黒く光沢があるのに対してメスは茶色っぽく、背中に黄色い斑点があるため容易に見分けられる。

あまり知られていないが、本種は元々日本に生息していた在来種ではなく海外から持ち込まれた「帰化生物」である。(もともと日本に生息していたダンゴムシもいる。)

【ダンゴ“ムシ” だけど昆虫じゃない！】



図2.ダイオウグソクムシ
(2015/4/5 大分 うみたまご)

ダンゴムシは、名前に「ムシ」とつくが昆虫ではなくエビやカニに近い(虫≠昆虫)。

ダンゴムシに近い生き物として、ワラジムシ、フナムシ、近年話題となっているダイオウグソクムシなどが挙げられる。脚の数が7対14本なのがこの種の特徴である。

参考文献

1) ダンゴムシジャパン <http://dango64jp.starrypages.net/>